

学校とココエールのヤングケアラー支援について

1. ココエールのヤングケアラー支援の方向性

国や県の調査研究報告等より

ヤングケアラーのことば

- ・学校だけが安全な私の居場所だったのに
- ・知らない人に家族の話なんかできるわけない
- ・「助けてあげる」「困っているんでしょ」という視点は、とてもいやな気持ちになる

ヤングケアラーが大人に求めること

○小学生

- ・自由に使える時間が欲しい 15. 2%
- ・勉強を教えてほしい 13. 3%
- ・自分の話を聞いてほしい 11. 9%



○中学生

- ・学校の勉強や受験勉強など学習のサポート21. 3%
- ・自由に使える時間が欲しい 19. 4%
- ・進路や就職など将来の相談にのってほしい16. 3%

ココエールの方針等

ココエールの方針

- ・「今繋がっているものものをさりげなく強くする」「いつでも子どもから相談できる関係を作る」
- ・子どもの気持ちにしっかり寄り添い、焦らさない
- ・ケアを取り上げるのではなく、自分の楽しみもできるようにする

ココエールの取組み(小中高校)

- ・学校が相談しやすい環境となるように、ヤングケアラーの理解についての助言を行う
- ・担任や養護教諭等、直接ヤングケアラーと関わる支援者がひとりで抱え込まないよう、情報共有、助言を行う
- ・実際のケア負担軽減のためコーディネートを行う

2. ココエールのヤングケアラー支援体制

支援コーディネーター

- ・教員の研修
- ・教員への助言
- ・実支援の調整
- ・SSW等、関係機関との連携



巡回相談員

- ・学校を巡回しながら、ヤングケアラーの対応についての助言、情報提供



地区担当

- ・ココエールの地区担当の職員
- ・虐待等、重症度や緊急性の高いケースを対応

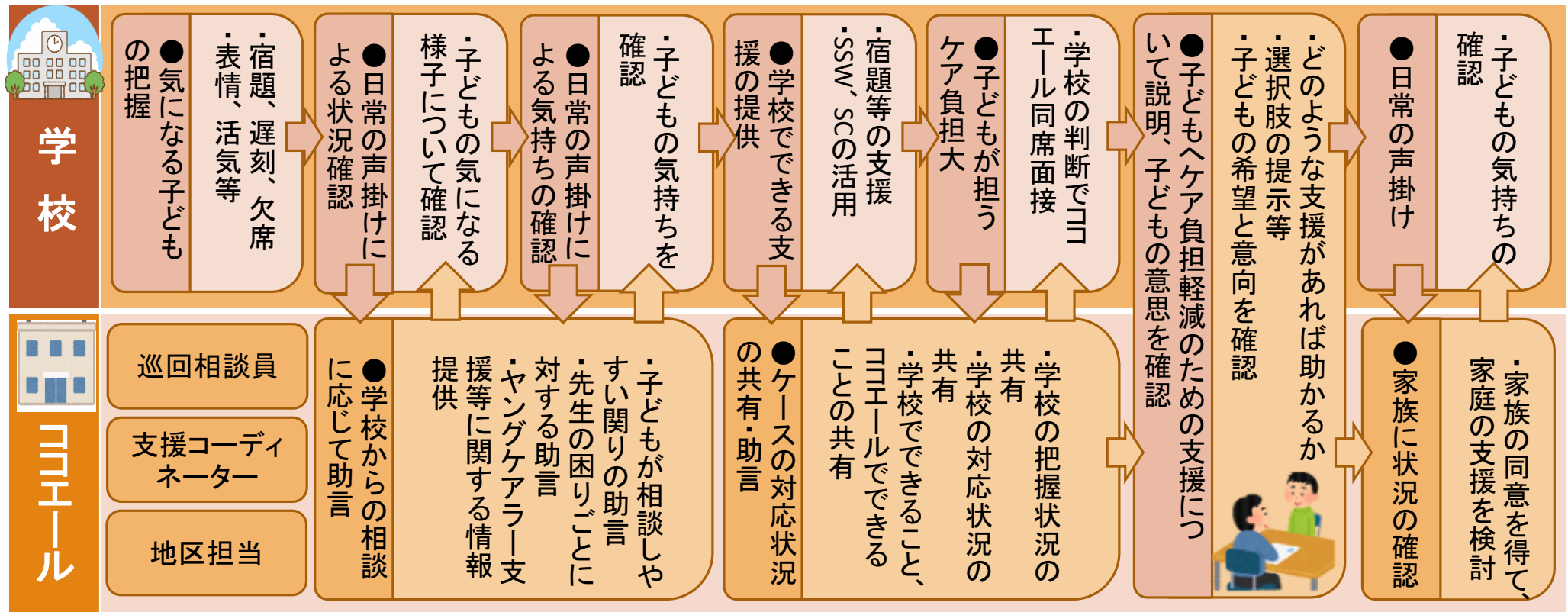


学校とココエールのヤングケアラー支援について

3. ヤングケアラー支援の流れの例

①子どもの心のケア負担の軽減

②子どもが担う実ケア負担の軽減



ポイント

- ヤングケアラーの支援は2つ(①心のケア負担の軽減と②実際に担う実ケア負担の軽減)
- 特に、①心のケア負担については、近くに理解者がいることが大切。
- 家庭では当然のことのため家庭内での相談はできない、ひとりで抱え込んでしまう構造を学校で話してもいいと思えるように、学校で話しやすい環境を整えることが重要。
- ②実ケア負担の軽減には、家族の理解が必要のため、ココエールが調整機能を担う。

